

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971000011
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム やすらぎ
所在地	山梨県北杜市長坂町小荒間1293
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の移ろいを肌で感じられる豊かな自然の中で、雄大な景色を毎日眺めながら生活できる認知症対応型施設。総合老人福祉施設内に併設されている特色を生かし、法人の協力を得ながら、認知症の入居者が、その人らしく生活できることを目的として支援しています。コロナ禍、地域交流や家族交流がなかなかできませんが、それを補うために毎月生活の様子をお便りや写真でご家族にお送りしたり、通信を季節ごとに発刊し、電話、メール等活用しながらご家族との連絡を密に取って、現状の利用者の姿をお届けすることに心掛けています。外出の機会も減っているため、高齢化されている利用者負担にならないミニドライブや散歩、日光浴などのレクや多く取り入れ実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高齢者を始め利用者と寄り添うことに取り組まれている法人を母体とし、本人の希望に沿った生活の支援に努められています。多彩な委員会を立ち上げ、職員が意欲的に福祉に関わりをもっていることが感じられます。事業所では認知症であっても今まで地域で暮らした事、これからも地域の一員として過ごされるよう地域の様子を伝える工夫をされていました。【できることはやる】コロナ禍ですべてではありませんが、買い物に行き食材を使って食事を作る、自分の洗濯は自分で、いつまでも役割を持つ事を大切にしています。毎日の中で体を動かしたりカラオケをするなど楽しみや元気を提供しています。家族と交流ができていませんが、担当が個々の様子を手書きで記載し写真を多く載せてお知らせしていました。コロナ禍でもできることがないか、利用者の立場で探っていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(やすらぎ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関わきの掲示板とワーカー室内に法人の理念と「やすらぎ」の理念を掲示しそれに基づいたサービスについて処遇会議で話し合い実践につなげている。	理念は、利用者が暮らしの中で喜びと楽しみを感じ、生き生きと過ごせ、今まで暮らした地域との関わりをもたれる生活を支援するものでした。職員には処遇会議や連絡ノートで周知を図っていました。会議は全員が参加できるよう2、3か月毎の夜間に行い、全員参加を試みていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外部との交流が困難な状況にあるが、それ以前は地域の自治会が主催する祭りや保育園、小学校の行事に招待されたり、見学を実施していた。現状では家族との窓越し面会や、お便りでの交流や法人内での利用者との交流に努めている。	コロナ禍のため地域交流は行っていませんが、今まで交流があったボランティアや自治会との関係は繋がりが保てていました。感染防止を行いつながりながら地域との交流ができないか、検討されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の建物内の地域交流センターを、敷地内の一戸建ての建物を地域交流の拠点として、地域の方々がよく入りやすい場所とするために改築し、交流が可能となったときの準備を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来隔月に会議を開催し、実績報告、事業報告、事故報告、職員動向など発表し、家族、地域の代表者や地域包括支援センターの職員から意見やアドバイス、地域課題への取り組みなど話し合い、活動の活性化やサービス向上へに足掛かりとしている。	コロナ禍ではありませんが運営会議開催を検討され、グループホーム以外の法人内施設で感染予防をし開催されました。会議には事業所活動の報告、利用者の活動や健康報告、地域の利用希望など外部の意見を聞かれました。特に事業所内の事故や虐待についての質問や対応策を検討されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の状況報告、困難事例への対処方法への相談に乗っていただいたり、情報交換を行っている。在宅の入居対象者の情報や入居に対する情報もいただくケースもある。	運営会議時に包括センターの参加もあり、地域の様子やアドバイス、コロナ感染の対応について相談されました。事例困難、精神的困難な時のアドバイスを受けていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研究委員会に全職員が所属し研修しているが、身体拘束、虐待防止についても安全対策委員会と共に毎月1回の会議と、接遇委員会で勉強会や研修を実施しフロア内でも伝達講習を行っている。日中の施錠は行わず、不穏となった利用者には付き添い対応している。	法人全体で取り組み、委員会も設置され勉強会が開催されていました。事業所では勉強会や研修以外にも昼休みを利用され、現場で問題はないか対応されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、権利擁護に関する研修に、順に職員が参加し、伝達講習を実施している。傷や内出血発見時は状況により、気づきやヒヤリハット、事故報告として、写真等記録に残し情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設の施設と学習会、伝達講習を行うこと、DVD等の活用により、知識を共有し、成年後見人を活用されている利用者を通して実際のケースとして対応や活用方法を常に話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に伴う契約の前に事前説明を行い、疑問点について繰り返し説明し承諾を得ている。算定見直しにの都度、ご家族に説明し承諾を頂いている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(やすらぎ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は家族会や面会時に活発なご意見を頂いたり、本音が出し合える機会を設けることが出来たが、困難となったため、適時に家族アンケートを実施したり、面会時の付き添いの機会に要望をお伺いしたり、ケアプランの作成前に文書で伺ったりし、ご意見を反映するよう心掛けている。	コロナ禍で面会時に直接家族から意見を聞くことが少なくなりました。法人では年1回は家族にアンケートをお願いし、意見要望を把握していました。事業所においては3か月に1回ケアプランの作成時に個人的な要望も聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、利用者の午睡の時間、引継ぎ時に意見交換を行い、周知するために連絡帳を活用している。提案については数日後に再度話し合い決定するようにし、周知徹底に努めている。運営に関する提案も実践検討しながらリーダー会議や研究会の場で議題としている。	職員の要望は利用者の支援についてや職員の介護体制の対応が検討されていました。特に利用者の希望で看取り介護を対応していましたが、介護度5の方が多くなり体制に困難があり、法人内の特養との検討が行われていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を法人も奨励し、研修に参加しやすいよう配慮している。ズーム研修など活用し外部研修に参加を奨励している。レク内容や材料の準備などの整備もしやすい状況を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員が7つの研究委員会に属し、年間を通してそれぞれのテーマに沿った研究を進め、ホームに持ち帰り取り組みを広げている。資格取得についても奨励金を出したり、勉強会の講師や場所の提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加盟のほか、市内の同業者との交流や情報交換に努めているがコロナ禍で情報機器を使った交流が主流となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問時に、ご本人の人柄が分かるように、生活歴や好きだったもの、人柄、エピソードなどをご家族に書いてもらったものを持参していただいてコミュニケーションの手掛かりとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での担当ケアマネからの情報収集と細かなアセスメントを行い、本人、ご家族の不安や今後の見通しや要望の聞き取りを実施し、入居後も連絡を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント段階で本人、ご家族、これまでかかったサービス業者と連携を取り、それぞれのニーズの確認を行い、継続できるものを提案していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望を最優先に、ホームでの生活の中で実現可能なものを選択し、自信と生きがいを持って生活できるように働きかけ、安心できる仲間づくりに心掛けている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	実践状況	外部評価
			ユニット名(やすらぎ)		次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密に取り、様子をお知らせすることにより、家族関係が粗雑にならぬよう心掛けている。お便りに写真を添え日頃の姿がよくわかるようにしている。逆に家族に情報も伺い仲介となるような話題を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事の情報を収集し、回想していただく機会を多く設けている。出かけることが出来ないで、新聞の読み聞かせや昔話ができる雰囲気作りを心掛けている。	コロナ禍のため地域との関わりが困難になってしまいました。今までもお茶の時間に行っていた新聞読みに地域の広報紙もあり、「昔はこんなことがあったよ」など今までのつながりを引き出すことを行っていました。人や場所との関係は広報紙や新聞などで関わりを持っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの趣味や好む状況を把握し、レクリエーションなどの中で利用者間の交流ができるよう仲介に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で生活している方については、年賀状や暑中見舞いなどにより連絡を取り、施設の状況をお知らせしている。家族会などで作った人間関係が継続できるよう、声掛けも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、意向や思いを聞き出すように心がけ、それぞれの懐かしんでいることを生活の中で取り上げ、一緒に作業したり味わったりすることに取り組んでいる。	利用者の想いは日により異なり、つかみにくさがありますが表情を読み取る様に努力されていました。誕生日に何が食べたいか、どんなお祝いの会にしようかなど話されていました。そんな中、利用者から絵を描きたいなどの希望が引き寄せ、個々にあった支援を心がけていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から聞き取ったり、書いてもらった文章を参考に思い出話を多くし、在宅のケアマネや利用施設の職員から情報を収集し話題にしてコミュニケーションを広げるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から聞き取り、なじみなものを近くに置いたり、こだわりのある行事や物を季節ごとに室内に飾ったりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望はもちろん、グループホームの特色が生かせるよう計画作成時の関わる人の意見をよく聞いてプランニング、モニタリングを実施する。	コロナ禍のため思うような面会ができず家族の意向が反映しにくくなっていますが、3か月ごとの計画作成時に要望などを聞かれました。本人の要望は、ミニドライブやお花見、散歩時に話を聞いたり、普段の様子から探ったり、グループホームでできる事に向き合い、集団の中でも【できること】を大切に作る計画を立てていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録のみでなく、日頃の気づきや本人の言葉を大切に、連絡帳や気づきシートを活用し職員間で情報の共有に努めている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(やすらぎ)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節の行事やなじみの作業と一緒に進める中で一人一人が興味を持つことを職員が知ることから始め、次を楽しみにする働きかけや達成感をどこから得るか個人の特性を把握して、レク内容を準備している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまではボランティアや地域の保育所、小学校の行事を楽しんできたが、現在は中断している。自由に外出できる状況が回復することを期待して、その方々と連絡を取りながら、現状で活用できる自施設内での交流や楽しみを継続している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の嘱託医は週に1回、施設全体では週に3回往診してくれるため、状況に応じて対応してくれ施設の看護師が毎日巡回してくれているが、在宅時から継続して見てもらっている訪問外来主治医についても受け入れている。本人、家族の選択により対応している。受診時にも必要に応じ職員が付添っている。	グループホームは原則家族が通院を行います。皮膚科、眼科など家族の希望以外は法人の嘱託医の訪問で対応されています。日常的には看護師が対応を行い、かかりつけ医や嘱託医と連携し健康管理を行っていました。家族通院には情報の提供や必要に応じて通院の動向も行ってました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が毎日数回巡回してくれ、嘱託医や協力病院との連携も取ってくれている。医師の指示のもと医務処置を完治するまで継続してくれる。利用者の状況も把握してくれている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時な連携は、施設の看護師とケアマネ双方が協力し専門分野での連携を取っている。協力病院以外でもMSWとの連携が最近スムーズになって居り安心して入退院ができるようになった。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時終末期の対応について説明し、ターミナル(看取り指針)についても説明している。契約時にサインをいただくこともあるが、グループホームとしての意味もあるため、特養への移行についても同時に説明し、重度化した時点で本人、ご家族に判断していただくことが多い。	終末ケアについて入所時に話し合わせ、特養への移行も確認されていました。できるだけ本人や家族の希望に沿える様、医療との連携を行い、納得のいく人生となるような協力体制ができていました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時とも対応マニュアルを作成し、連絡手順等についてもわかりやすく説明、訓練している。特養併設であるため、夜間の緊急時の対応についても協力体制が確立している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の防災対策委員会に参加し防災訓練や対策を実施している。火災、地震、水害それぞれの対策もマニュアル化して災害時の食物、水の備蓄も行っている。	法人の防災委員会が訓練や対策を検討され、年3回の訓練は地域消防団と行っていました。地域は土石流の心配が多少あり、法人の2階の事業所は上層階への避難訓練も行っていました。法人は災害時の備蓄をされており、地域に災害が発生した時は避難場所、備蓄の提供等地域への貢献が行えるようになっていました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少ない人数の中で、慣れによる言葉かけが雑になる傾向があるため、特に注意して、互いに注意し合うよう掛けている。個人情報についてはワーカールーム内で管理している。	個々を大切にする取り組みを行っており、レクリエーション等も個々の希望に沿って参加を促していました。言葉かけも慣れ合いにならないように職員同士、気付きあい、注意し合っていました。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(やすらぎ)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課は決まっているが、過ごし方については自己決定を優先するよう声掛けに注意している。おやつや飲み物についても選択できるよう準備している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションについても複数の選択肢を用意して、希望により対応している。お茶を提供しながら選択していただいたり、誘ったりして強制しない、ゆったりとした流れを作るようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感と清潔に注意しながら、本人の選択に協力しながらおしゃれを楽しんでいただけるよう働きかけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ前はメニュー作りにも希望を伺いながら作っていたが、現状は厨房に委託して作ってもらっているが、模擬喫茶や選択スープや選択食の機会を多く作ってもらっている。また週に1回やすらぎの日を作り、季節に合った入居者の好みのメニューで食事を提供している。	現在コロナ禍で人手不足になり食事は委託していますが、行事食や誕生会食は週1回季節感のあるものやお寿司のテイクアウトを楽しませていました。検食表が作成され、利用者の立場でのコメントが細かく記載され、楽しめる食事提供につなげていました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量については、本人に希望を聞きながら栄養士と相談し、ご本人に合った食事の提供に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に一人一人に合った歯ブラシやスポンジ等用具を使用し口腔ケアを実施している。義歯消毒も週2回職員管理で行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、ご本人に適した排泄用具の検討を常に行っている。誘導や介助の有無についても定期的に検討したり、朝礼や引き継ぎの時間を活用し排泄委員を中心に常に検討している。	排泄委員会が設置され、個々にあった排泄支援やパットなど適切な物の提供を行っていました。委員会や看護師は個々の排便状況を把握し、医師の指導を受け便秘の改善に取り組んでいました。在宅時はオムツだった方もパットへの改善を行い、経済的負担の軽減にもつなげていました。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握により便秘気味の方には、水分ゼリーや好む水分の提供を検討したり、食物繊維の多い食品の提供に努めたりして排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を最低限度として、排泄後や本人の希望によって入浴できるように日曜日以外毎日入浴できる体制をとっている。ゆず湯やバラのお風呂など時期に合わせて楽しむこともある。	毎日でも入浴を希望される方には対応ができていました。入浴時、バラの花やゆず湯を提供し楽しんでいただけていました。介護度5の方へは特養と連携が取れ、対応ができていました。現在は女性の利用者のみ、職員も女性のため同姓介護ができています。男性利用者にも確認し対応していくとのことでした。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室であるため、安静を希望される方には体調に合わせて休んでいただいている。低血圧や高齢の方で朝起きられない方も体調に合わせて起きていただいている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(やすらぎ)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療看護師と連携し内服管理してもらいながら、内服情報を共有し服薬管理も何重ものチェックにより誤薬がないよう提供している。副作用等心配がある場合も看護師と協力し医師に相談してもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業の分担や、季節の制作活動など入居者の状況に合わせた提案を行い、自己選択していただきながら達成感を味わっていただいたり、季節感のある装飾を行っている。嗜好品についても特に制限はしていない。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会制限さえある状況の中で、自由な外出は困難であるため、せめて施設敷地内の散策や日光浴、ミニバスハイクを季節ごとに実施している。家族交流可能となった場合は家族ご協力のもと、墓参りや帰宅も実施予定。	コロナ禍以前は食材購入時、一緒に行き個々の買い物も行っていましたが。今は家族や職員が購入しています。外出は感染予防をして散歩、日光浴、ミニバスハイクの機会を楽しんでいました。外出の機会を検討されていました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出制限があるため、本人の希望を伺いながら、担当職員が希望に沿ったものを購入している。家族承諾の下、少額ではあるが自分の財布を管理している方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり受けたりは施設の電話を使用しながら行っている。手紙についても年賀状のやり取りや、書道の作品を送ったりすることは職員が支援しながら行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節感を味わっていただくために花を飾ることは行っている。廊下の壁面を利用し、季節の創作作品を飾ったりしている。採光については自然光で対応できているが、夜間の光を嫌う方については間接照明や足元灯を利用し対応している。	共有スペースには利用者の手芸品等季節感あふれる作品が飾られていました。廊下にソファの設置、ベランダには日光浴するスペースがありました。照明にも気遣い、利用者が安全安心できる場所になっていました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソーシャルディスタンスに注意しながらソファに座ったり、テーブルを囲んだりするスペースが確保できている。廊下にも何か所かソファが置いてあり、ベランダも天気の良い日には日光浴できるスペースがある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットと棚は備え付けであるが、それ以外の家具や装飾品を持ち込むことは可能であり、思い出の品を持ち込んだり、自分で描いた絵が飾ってある方もいる。	自宅で使っていた物、テレビや絵、今まで作った作品を持ち込まれ、今までの生活の延長を心がけていました。日常の食器も今までの茶わん、お椀、湯飲み、箸は家庭から、副食用の食器は陶器を使っていました。個々の今までの生活を大切に心地よい環境づくりを行っていました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、福祉用具の活用はその人に合わせた物が調達できるため、(自動ブレーキつき車椅子やステップアップ歩行者など)安全に移動できている。車椅子で利用できる洗面台や高さ調整できる作業台など活用している。			